



2040年度時点での介護職員の必要数は約280万人

～厚生労働省が「第8期介護保険事業計画に基づく介護人材の必要数について」を公表～

◆7月9日、厚生労働省は「第8期介護保険事業計画に基づく介護人材の必要数について」を公表、その中で、第8期介護保険事業計画の介護サービス見込み量等に基づき都道府県が推計した介護職員の必要数を集計すると、2040年度に約280万人必要になるとの推計を示しました。

令和元(2019)年度の介護職員数(以下「現在数」と言います。)は「令和元年介護サービス施設・事業所調査」による約211万人(2,105,885人)でしたが、令和5(2023)年度には約22万人増の約233万人、団塊の世代が全員75歳以上になる令和7(2025)年度には約32万人増の約243万人、団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者となる令和22(2040)年度には約69万人増の約280万人必要になるという推計です(参考資料の図表1参照)。

近年の入職、離職の動向、及び離職者のうち介護分野への再就職の動向が原則現状と同様に推移していると仮定し、生産年齢人口等の人口動態を加味して推計した「現状推移シナリオによる介護職員数(以下「現状推移見込数」と言います。)」は、2040年で215万人にしかありませんので、さらなる介護人材の確保策や効率化が必要となります。このため国においては、①介護職員の処遇改善、②多様な人材の確保・育成、③離職防止・定着促進・生産性向上、④介護職の魅力向上、⑤外国人材の受入環境整備など、総合的な介護人材確保対策に取り組むこととしています。

なお2040年の都道府県別の推計を見ると、現状推移見込数が現在数を下回るのは秋田県を筆頭に21道府県あります。また必要数と現状推移見込数の差すなわち不足見込数は、東京都が最も多くて7万人強、次いで大阪府の7万人弱、以下、神奈川県、兵庫県、北海道、愛知県、千葉県、埼玉県と、大都市圏が並びます。一方高知県だけは現状推移見込数が必要数を上回ります。また福井県は必要数が現在数を下回ります。(事務局)

潜在介護福祉士等、有資格者の約2割

～試験センターが「就労状況調査」を公表～

◆公益財団法人社会福祉振興・試験センターは7月9日、「社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の「就労状況調査」(速報版)について」を公表しました。この調査は昨年の8月末時点で登録のある社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士(以下「3士」と言います。)に対して昨年11月から12月にかけて行われ、それぞれの有効回答率は53.3%、42.3%、52.7%でした。

調査によると、国家資格を持っている人の中で、福祉等以外の分野で仕事をしている人と現在仕事をしていない人の割合はそれぞれ20.1%、20.8%、22.1%と、いずれも2割強の人が福祉等の仕事に就いていないことが判りました。

現在、福祉・介護・医療の分野で仕事をしている人の令和元年の年収の(回答があった額)の平均額は、社会福祉士が403万円、うち男性が473万円、女性が365万円、介護福祉士は292万円のうち男性が373万円、女性が269万円、精神保健福祉士は404万円のうち男性が463万円、女性が377万円でした。

また現在の職場を選択した理由は、3士とも「やりたい仕事だった」がトップですが、以前の福祉・介護・医療分野の職場を辞めた理由のトップを見ると3士とも「職場の雰囲気や人間関係に問題があった」で、「給与や賃金の水準に満足できなかった」や「心身の健康状態の不調」よりも10ポイント近く高い結果が出ています(いずれも複数回答)。職場の雰囲気や人間関係は測定が困難なものの、職員の定着や採用に必要な視点です。(事務局)

◎「就労状況調査」(速報値)

http://www.sssc.or.jp/tourouku/results/pdf/r2/results_r2_sokuhou.pdf

コロナ対策と熱中症対策

～屋外で人と十分な距離があれば、マスクを外そう～

◆新型コロナウイルス感染症についてはワクチンの接種が開始されていますが、5たび感染者数が増加傾向にあり、東京都では4度目の緊急事態宣言が出されるなど、引き続き予断を許さない状況となっています。その一方で近年、熱中症による健康被害が数多く報告されており、気温の高い日が続くこれからの時期は、熱中症予防の対策も併せて必要となります。

飛沫防止にはマスクの着用がとても有効ですが、夏季の高湿・多湿な環境下でのマスク着用は熱中症のリスクを高めるおそれがあります。そのため、環境省及び厚生労働省においては、新型コロナウイルス感染対策と熱中症予防の両立を図るため、屋外で人と十分な距離(2m以上)離れている時は熱中症を防ぐためにマスクを外すといったことを呼びかけるリーフレットを作成し、「新しい生活様式」下における熱中症予防の周知を図っています(参考資料の図表2参照)。

一般的に気温が31℃を超えると熱中症の発生が多くなると言われています。また同じ気温では湿度が高いほうが暑さ指数(WBGT)は高くなります。暑さに慣れる前の時期のほうが真夏よりも低い気温で熱中症になりやすいとも言われます。梅雨時期や梅雨明け前後から熱中症予防が叫ばれるのはこれらのためです。

リーフレットでは、高齢者の熱中症は半数以上が自宅すなわち室内で発生していること、熱中症による死亡者の8割が高齢者であること等の情報も提供、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給をすることも推奨しています。新型コロナウイルス感染症により新しい生活様式が求められていますが、マスクの臨機応変の着用のほか、エアコン使用と同時の換気など、コロナ対策と熱中症対策を心掛けたいものです。(事務局)

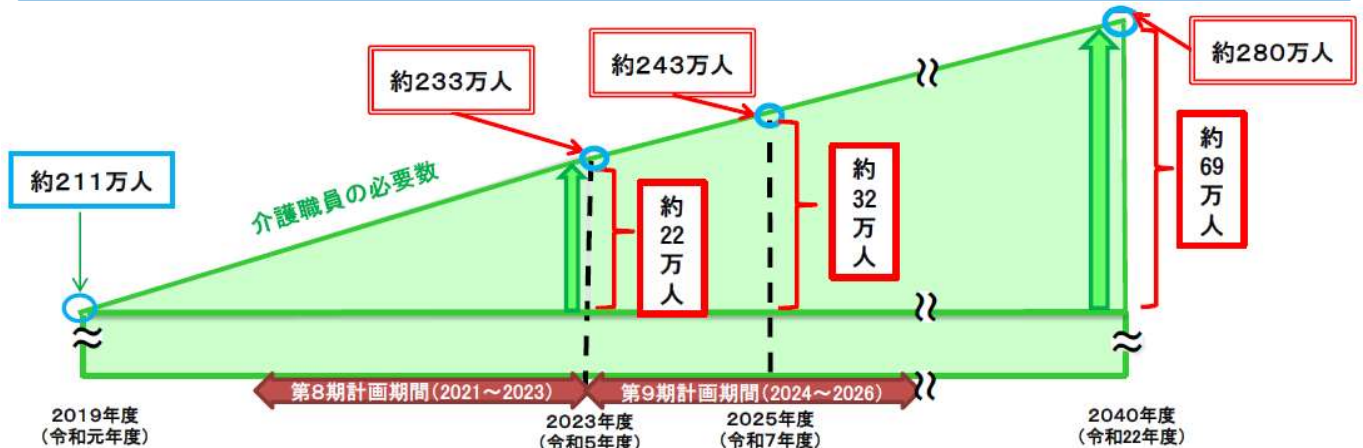
◆本年度、事務局主催の「社会福祉法人会計入門講座」は、三宅由佳税理士(本会会員事務所 三宅由佳税理士事務所所長)を講師として、期間限定のオンライン配信により開催を致します。日程の詳細等が決定致しましたらメール・リングリスト等にてご連絡を致します。どうぞよろしくお願い致します。

◆ FAX NEWS (PowerPointにて制作) は下記URL総福研ホームページからダウンロードしていただけます。どうぞご利用下さいませ。◆



◆図表1 第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について

- 第8期介護保険事業計画の介護サービス見込み量等に基づき、都道府県が推計した介護職員の必要数を集計すると、
- ・2023年度には約233万人（+約22万人（5.5万人/年））
 - ・2025年度には約243万人（+約32万人（5.3万人/年））
 - ・2040年度には約280万人（+約69万人（3.3万人/年））
- となった。 ※（ ）内は2019年度（211万人）比
- ※ 介護職員の必要数は、介護保険給付の対象となる介護サービス事業所、介護保険施設に従事する介護職員の必要数に、介護予防・日常生活支援総合事業のうち従前の介護予防訪問介護等に相当するサービスに従事する介護職員の必要数を加えたもの。
- 国においては、①介護職員の処遇改善、②多様な人材の確保・育成、③離職防止・定着促進・生産性向上、④介護職の魅力向上、⑤外国人材の受入環境整備など総合的な介護人材確保対策に取り組む。



- 注1) 2019年度（令和元年度）の介護職員数約211万人は、「令和元介護サービス施設・事業所調査」による。
- 注2) 介護職員の必要数（約233万人・243万人・280万人）については、足下の介護職員数を約211万人として、市町村により第8期介護保険事業計画に位置付けられたサービス見込み量（総合事業を含む）等に基づく都道府県による推計値を集計したもの。
- 注3) 介護職員数には、総合事業のうち従前の介護予防訪問介護等に相当するサービスに従事する介護職員数を含む。
- 注4) 2018年度（平成30年度）分から、介護職員数を調査している「介護サービス施設・事業所調査」の集計方法に変更があった。このため、同調査の変更前の結果に基づき必要数を算出している第7期計画と、変更後の結果に基づき必要数を算出している第8期計画との比較はできない。

資料：2021.07.09厚生労働省「第8期介護保険事業計画に基づく介護人材の必要数について」資料1から

◆図表2 熱中症予防×コロナ感染防止で「新しい生活様式」を健康に！

熱中症予防 × コロナ感染防止で
「新しい生活様式」を健康に！

【新しい生活様式】とは：新型コロナウイルス感染症防止の3つの基本である ①身体的距離の確保 ②マスクの着用 ③手洗いの徹底や「3密（密着、密集、密閉）」を避ける、等を取り入れた日常生活のこと。

注意 マスク着用により、熱中症のリスクが高まります

マスクを着けると皮膚からの熱が逃げにくくなり、気づかないうちに脱水になるなど、体温調節がしづらくなります。暑さを避け、水分を摂るなどの「熱中症予防」と、マスク、換気などの「新しい生活様式」を両立させましょう。

熱中症を防ぐために マスクをはずしましょう

屋外で 人と2m以上（十分な距離） 離れている時

十分な距離

（マスク着用時は）

激しい運動は避けましょう

のどが渇いていなくても こまめに水分補給をしましょう

気温・湿度が高い時は 特に注意しましょう

暑さを避けましょう

・涼しい服装、日傘や帽子

・少しでも体調が悪くなったら、涼しい場所へ移動

・涼しい室内に入れば、外でも日陰へ

のどが渇いていなくても こまめに水分補給をしましょう

・1日あたり 1.2L(12)を目安に

1時間ごとに 入浴前後や起床後、コップ1杯 必ず水分補給を

ペットボトル 500mL 2.5本 コップ6杯

・大量に汗をかいた時は 塩分も忘れずに

エアコン使用中も こまめに換気をしましょう

（エアコンを止める必要はありません）

・定期的な家庭用エアコンは、室内の空気を循環させるだけで、換気は行っていない

・窓とドアなど2か所を開ける

・扇風機や換気扇を併用する

・換気後は、エアコンの温度を こまめに再設定

暑さに備えた体づくりと 日頃から体調管理をしましょう

・暑さに備え、暑くなり始める時期から、無理のない範囲で適度に運動「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度で毎日30分程度

・水分補給は忘れずに

・毎朝など、定時の体温測定と健康チェック

・体調が悪い時は、無理せず自宅で静養

知っておきたい 熱中症に関する大切なこと

熱中症重症化アラート発表時は 熱中症予防行動の徹底を！

運動は原則中止、外出はなるべく避け、涼しい室内に移動してください。

熱中症による死亡者の 約8割が高齢者

約半数が80歳以上ですが、若い世代も注意が必要です。

高齢者の熱中症は 半数以上が自宅で発生

高齢者は自宅を涼しく、若い世代は屋外での作業中、運動中に注意が必要です。



新型コロナウイルス感染症に関する情報：
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html
熱中症に関する詳しい情報：<https://www.wbgt.env.go.jp/>



高齢者、子ども、障害者の方は、熱中症になりやすいので十分に注意しましょう。
周囲の方からも積極的な声かけをお願いします。

資料：環境省「熱中症予防情報サイト 普及啓発資料のダウンロード」から